

2025年2月3日

報道関係者各位

みんぱく創設50周年記念特別展
「民具のミカタ博覧会 — 見つけて、みつめて、知恵の素」

A Special Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding :
MINGU Design Expo — Discovering Sources of Wisdom

2025年3月20日(木・祝) ~ 6月3日(火)



展示概要

民具は、日常生活で必要なものとしてつくられ、使われてきた暮らしの造形であり、身近な素材を活かす知識や技、人びとが育んできた自然観や世界観にふれることができます。また、民具は、研究者が旅をし、さまざまな地域の生活文化と出会いながら収集され、博物館のコレクションへと発展します。

本特別展では、一九七〇年大阪万国博覧会のために世界各国で収集された世界の民具と、その同時代に日本文化の多様性に目を向けて、全国規模で収集された武蔵野美術大学所蔵の日本の民具から、選りすぐりの民具を紹介します。

数多くの切り口から、世界と日本の民具の魅力を「見つけて」、ひとつひとつ「みつめて」、そこに「知恵の素」を探っていただきます。

本展の見どころ

1. 世界の民具と日本の民具から生活の知恵の素を探る

本特別展では、一九七〇年大阪万国博覧会のために世界各国で収集された世界の民具（EEM コレクション）と、同時代に収集された武蔵野美術大学所蔵の日本の民具（ムサビ・コレクション）を「見つけて」、同じ視線で「みつめて」、生活文化の「知恵の素」を探っていただきます。



枕（EEM コレクション・ソマリア連邦共和国）



箱枕（ムサビ・コレクション・埼玉県）

2. EEM コレクションの一端を紹介

EXPO'70 のテーマ館「太陽の塔」の地下では、人類の原点として、世界の民族資料約 2,500 点が展示されました。これらの民族資料の収集を担ったのが、「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団（EXPO'70 Ethnological Mission）」、通称「EEM」です。本展では、EEM が収集した資料を EEM コレクションとして紹介し、EXPO'70 を振り返ります。



酒壺（EEM コレクション・ウガンダ共和国）

3. ムサビ・コレクションの一端を紹介

ムサビ・コレクションは、旅する巨人と称された民俗学者の宮本常一が中心となって、武蔵野美術大学生活文化研究会と近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所が収集したもので構成されます。このなかには、民族文化博物館を 1975 年に開設することを念頭に収集された、生活文化や流通などを示す陶磁器・竹細工・染織が含まれています。



手洗鉢（ムサビ・コレクション・広島県）

資料点数 約 1,300 点

展示構成

■ 1階

イントロダクション ～ ガイダンス展示

第1章 かたちと身体性

第2章 ユーモアと図案

第3章 見立てと表象

ワークショップ・ベース

担当教員／日高真吾（国立民族学博物館 教授）

加藤幸治（武蔵野美術大学 教授）

亀山裕市、神垣成美、中川百合、徳永彩乃（ミングイーナ）

■ 2階

第4章 ムサビ・コレクション

担当教員／加藤幸治（武蔵野美術大学 教授）

第5章 EEM コレクションとは

担当教員／日高真吾（国立民族学博物館 教授）

エピローグ 次の旅へー発信されるコレクション

担当教員／丸川雄三（国立民族学博物館 教授）

宮前知佐子（国立民族学博物館 助教）

寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

日高真吾（国立民族学博物館 教授）

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

公開シンポジウム

コレクションの系譜学

会 場 本館2階第5セミナー室

日 時 3月30日(日) 13:20～16:25 (12:30開場)

講 師 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)、神野善治 (日本民具学会 会長、武蔵野美術大学 名誉教授)、川村清志 (国立歴史民俗博物館 准教授)、日高真吾 (国立民族学博物館 教授)、西まどか (編集者)

定 員 会場参加：50名 オンライン参加：450名

参加方法 会場参加：事前申込制 (先着順) / 参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
オンライン参加：詳細はみんぱくホームページ参照

内 容 本シンポジウムでは、1970年代前後にEEMが収集したEEMコレクション、旅する巨人と称された民俗学者の宮本常一が中心となって収集したムサビ・コレクション、そして近年、奥能登国際芸術祭で試みられている「大蔵ざらえプロジェクト」による民具コレクションに着目し、民具の巨大コレクションの形成の活動を概観します。そして、コレクションの発展的な活用等について議論を深めます。

Doing TSUNEICHI『忘れられた日本人』を読み直す

会 場 本館2階第5セミナー室

日 時 4月13日(日) 13:20～16:25 (12:30開場)

講 師 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)、北條勝貴 (上智大学 教授)、山川志典 (武蔵野美術大学 非常勤講師)、日高真吾 (国立民族学博物館 教授)、小谷竜介 (文化財防災センター 統括リーダー)

定 員 会場参加：50名 オンライン参加：450名

参加方法 会場参加：事前申込制 (先着順) / 参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
オンライン参加：詳細はみんぱくホームページ参照

内 容 本シンポジウムは、武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパスを拠点に断続的に進められてきた『忘れられた日本人』の読書会「Doing TSUNEICHI」の議論をベースに企画したものです。ここでは、『忘れられた日本人』を名著として神話化するのではなく、より時代の中にもう一度埋め込んで再考し、現代の人文学の公共性の議論と、ミュージアムのコレクションの意義について議論を深めます。

みんぱくゼミナール

民具のミカタ博覧会ができるまで—EEMコレクション×ムサビ・コレクション

- 会 場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時 5月17日(土) 13:30~15:00 (13:00開場)
講 師 日高真吾・野林厚志 (国立民族学博物館 教授)、加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)
定 員 400名
参加方法 申込不要／参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
内 容 特別展で紹介している EEM コレクションとムサビ・コレクションの概要を示しながら、民具の魅力について紹介します。

ワークショップ

会場＝特別展示館 ※特別展示観覧券が必要です。(イベント参加費は不要)
 その他、来場者が参加できるイベントも実施します。

じっくり観察！民具に探る『デザインの素』

- 会 場** 特別展示館
日 時 5月4日(日・祝) ※詳細はみんぱくホームページを参照ください。
講 師 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)、
 亀山裕市 (武蔵野美術大学 非常勤講師)、ミングイーナ
定 員 なし (ご自由に参加いただけます)
参加方法 要特別展示観覧券 (イベント参加費は不要)
内 容 展示している民具をじっくり観察することで見えてくる「デザインの素」。スケッチブックを持って民具を観察し、ヴァナキュラーなデザインの魅力を見つけ、共有する演習授業を体験いただきます。

民具の4コママンガを作ろう

- 会 場** 特別展示館
日 時 5月5日(月・祝) ※詳細はみんぱくホームページを参照ください。
講 師 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)、
 ツルタシュリ (デザイナー)、天海夏矩 (マンガ家)
定 員 なし (ご自由に参加いただけます)
参加方法 要特別展示観覧券 (イベント参加費は不要)
内 容 展示の各トピックのデザインのアイデアをもとに、民具や仮面等を擬人化して4コママンガを作るワークショップです。みんなで、4コママンガを制作し展示します。

みんなくウィークエンド・サロン ― 研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

会場 = 特別展示館 ※特別展示観覧券が必要です。(イベント参加費は不要)

太陽の塔の「地底の太陽」大考察

会 場	特別展示館
日 時	4月6日(日) 14:30~15:15
講 師	末森薫(国立民族学博物館 准教授) 春原史寛(武蔵野美術大学 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要特別展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	岡本太郎の活動をたどりながら地底の太陽と太陽の塔の意味に迫ります。

数学者の民具論

会 場	特別展示館
日 時	4月27日(日) 14:30~15:15
講 師	日高真吾(国立民族学博物館 教授) 正井秀俊(武蔵野美術大学 准教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要特別展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	身近に隠れた数学をとおして探る、美術そして民具とのつながり。

連想検索と民具のミカタ

会 場	特別展示館
日 時	5月25日(日) 14:30~15:15
講 師	丸川雄三(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要特別展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	標本資料のデータベースから、連想検索で世界の民具をあつめてみましょう。

民具の3D撮影の実演解説

会 場	特別展示館
日 時	6月1日(日) 14:30~15:00
講 師	高科真紀(国立民族学博物館 助教) 大石啓明(武蔵野美術大学 准教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要特別展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	立体的な民具を3D撮影することで何が見えてくるのか。実演を交えて解説します。

友の会講演会

【大阪】

「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」の展示を概観

会場 本館2階第5セミナー室
日時 4月5日（土）13:30～15:00（13:00開場）
講師 日高真吾（国立民族学博物館 教授）
内容 民具は、日常の暮らしのなかで人びとが育ててきた自然観や世界観にふれることができます。特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」はこうした民具の魅力をさまざまなミカタから引き出すことを目的としました。
 そこで、本講演では、特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」の展示内容について、その全容を解説します。



EEMが収集したウガンダの酒壺
（撮影：国立民族学博物館）

定員 70名
参加方法 ① 会場参加（第5セミナー室）
 ② オンライン（ライブ配信）参加 ※会員限定
 ・会場、オンライン配信ともに事前申込制（先着順）
 ・友の会会員、キャンパスメンバーズ：無料、
 一般：500円
 ※講演会終了後、特別展の見学会をおこないます。
 （要特別展示観覧券）
問い合わせ 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)
 電話 06-6877-8893

【東京】

みんなく×ムサビ「民具で継がなるコレクション」

会場 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス7階
 コワーキングスペース「Ma」
 （東京都新宿区市谷田町1-4）
日時 5月24日（土）13:30～15:00（13:00開場）
講師 加藤幸治（武蔵野美術大学 教授）
内容 国立民族学博物館が所蔵する、民具研究黎明期のアチックミュージアム・コレクション。渋谷敬三に学んだ宮本常一が、戦後に若者たちと収集したムサビ・コレクション。それと同時代に大阪万博のために世界中から収集されたEEM コレクション。三つの民具コレクションに、アチックミュージアムが現代に残したレガシーを探ります。
 ※同キャンパス2階の社会連携拠点 1/M（イチエム）にて、写真展「ムサビ・コレクション 菌部澄が撮影した民具」を開催します。講演会の開始前や終了後に、ご自由に観覧ください。



宮城県川崎町での調査で収集されたコラ褌
（撮影：加藤幸治）

定員 50名
参加方法 会場参加のみ
 ・事前申込制（先着順）
 ・友の会会員、武蔵野美術大学在籍学生、教職員：無料
 一般：500円
問い合わせ 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)
 電話 06-6877-8893

【館外開催】

サテライト展「ヴァナキュラー・比較文化論」

会 場 武蔵野美術大学 民俗資料室ギャラリー
(東京都小平市小川町1-736)

日 時 3月31日(月)～6月3日(火)10:00～17:00
(水曜・祝日休室)

※入館料無料、会期中は民俗資料室収蔵庫も見学いただけます。

美大生企画「民具のミカタ・ワークショップ」

会 場 武蔵野美術大学 民俗資料室ギャラリー
(東京都小平市小川町1-736)

日 時 5月31日(土)

講 師 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教授)

開催概要

展覧会名	みんなく創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会一見つけて、みつめて、知恵の素」
会場	国立民族学博物館 特別展示館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)
会期	2025年3月20日(木・祝)～6月3日(火)
開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	水曜日(※ただし、水曜日が祝日の場合は直後の平日)
観覧料	一般 880円(600円)、大学生 450円(250円)、高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 *()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方(一般料金)の割引料金(要証明書等)。 *障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
共催	武蔵野美術大学 美術館・図書館
協力	公益財団法人千里文化財団
後援	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

実行委員長 日高 真吾 (ひだか しんご)

元興寺文化財研究所研究員を経て2002年より現職。
民俗文化財の保存修復方法や博物館における資料保存に関する研究をおこなう。主な著書、編著書に、『女乗物—その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会 2008年)、『博物館への挑戦—何がどこまでできたのか』(三次企画 2008年 園田直子と共編)、『記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産』(千里文化財団 2012年)、『災害と文化財—ある文化財科学者の視点から』(千里文化財団 2015年)、『継承される地域文化—災害復興から社会創発へ』(臨川書店 2021年)がある。



実行委員

野林 厚志 (国立民族学博物館 教授)	加藤 幸治 (武蔵野美術大学 教授)
末森 薫 (国立民族学博物館 准教授)	川村 清志 (国立歴史民俗博物館 准教授)
寺村 裕史 (国立民族学博物館 准教授)	天野 真志 (国立歴史民俗博物館 准教授)
宮前 知佐子 (国立民族学博物館 助教)	西村 慎太郎 (国文学研究資料館 教授)
河村 友佳子 (国立民族学博物館 プロジェクト研究員)	小谷 竜介 (国立文化財機構文化財防災センター 統括リーダー)
橋本 沙知 (国立民族学博物館 プロジェクト研究員)	
松本 文子 (国立民族学博物館 機関研究員)	武知 邦博 (兵庫県立兵庫津ミュージアム 副館長)
	亀山 裕市 (武蔵野美術大学 非常勤講師)

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係

Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp

プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press

みんぱく創設 50 周年記念特別展
「民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素」
広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】カヴァ用木鉢 サモア



【3】酒壺 ウガンダ



【4】壺 パプアニューギニア



【5】枕／椅子 ソマリア



【6】木彫／神像 マレーシア



【7】手洗鉢 広島県
武蔵野美術大学 美術館・図書館所蔵



【8】箱枕 埼玉県
武蔵野美術大学 美術館・図書館所蔵

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課 広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

みんなく創設 50 周年記念特別展
「民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素」
広報用画像 利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

3組6枚 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

E-mail koho@minpaku.ac.jp または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【2】～【6】 国立民族学博物館所蔵

【7】【8】 武蔵野美術大学 美術館・図書館所蔵

・写真（画像）の過度なトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
Tel : 06-6878-8560 (直通) Fax : 06-6875-0401 E-mail : koho@minpaku.ac.jp